

基本方針策定の参考となる主な意見や基準等

1 「日立市における適正配置の考え方」に関するもの

(1) 学校規模に関するもの

検討委員会	市民意見		国県の基準
	アンケート	地域懇談会	
<p>(児童生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小規模校では、集団教育活動の実施が難しい。</li><li>・小規模化の影響で、部活動の運営が難しい(団体戦のチームが組めない)。</li><li>・交友関係が広がるので、3クラスはあった方がよい。</li><li>・中学校では、生徒の人間関係に配慮した柔軟な学級編成ができるので、2学級より3学級の方がより良い。</li><li>・ある程度の規模があると特別支援が必要な子どもたちにとって安心できる環境が作れる。</li><li>・子どもたちも教員も、ある程度の人数がいると相談相手がいて安心できる。</li></ul> <p>(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小規模校は教員が少なく、一人一人の負担が増える。</li><li>・学級が複数あると、教員同士で授業を練り上げ資質向上が期待できる。</li><li>・子どもたちも教員も、ある程度の人数がいると相談相手がいて安心できる。</li><li>・教員経験から、大規模校では、子どもの日常の様子を掴みきれない。</li></ul>	<p>(問11) ※望ましい1学年当たりの学級数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学校は、2学級～3学級</li><li>・中学校は、3学級～4学級</li></ul> <p>(問12) ※その理由</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・クラス替えで幅広い人間関係作りができる。</li><li>・社会性や協調性を養う機会が増える。</li><li>・教員の目が一人一人の児童生徒に届く。</li><li>・部活動の幅が広がる。</li></ul> <p>(自由意見は整理中に付き次回提示)</p>	<p>(児童生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・複式学級は解消するべき。 (義務教育の中で一番大切な、子ども同士の関わりの中で成長していくことができない。また、人間関係が固定化され豊かな人間性の醸成は望めない。)</li><li>・クラス替えができる程度の規模は必要である。 (人間関係が固定化され豊かな人間性の醸成は望めない。)</li><li>・小規模校ならではの良さがある。 (丁寧に指導してもらえる。また、地域と一体となって取り組める。)</li><li>・小規模校では教員数が少なく、出張などで担任が不在の日が多く不安である。</li><li>・入りたい部活動がない</li></ul> <p>(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・複式学級は解消するべき。 (指導や教材研究に係る負担が大きい。特別な指導技術が必要である。)</li></ul> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小規模校は保護者の人数が少ないので、PTA活動の負担が大きい。</li><li>・数で一律に決めるべきではない。</li></ul>	<p>(国)</p> <p>学校教育法施行規則 第41条、79条</p> <p>○小中学校とも12～18学級が標準</p> <p>公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(P9)</p> <p>○小学校 12学級以上が望ましい</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全学年でクラス替えができる。</li><li>・学習活動の特質に応じて学習集団を編成することができる。</li><li>・同学年に複数教員を配置できる。</li></ul> <p>○中学校 9学級以上が望ましい</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全学年でクラス替えができる。</li><li>・同学年に複数教員を配置できる。</li><li>・免許外指導を無くすことができる。</li><li>・全ての授業で教科担任による学習指導を行うことができる。</li></ul> <p>(茨城県) 指針 P2, 3</p> <p>○小学校 12学級以上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・クラス替えができる。</li></ul> <p>○中学校 9学級以上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・クラス替えができる。</li><li>・全ての教科の担任を配置できる。</li><li>・主要5教科で複数教員を配置できる。</li></ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・複式学級の解消を積極的に図る。</li><li>・小学校は、6学級以下の学校の統合を検討すべき。</li><li>・中学校は、5学級以下の学校の統合や学区の見直しを検討すべき。</li><li>・過去に本来の学区を分離した場合は、学区の見直しや統合による適正規模化への取組を検討すべき。</li></ul>

（２）クラス規模に関するもの

検討委員会	市民意見		国県の基準
	アンケート	地域懇談会	
<p>（児童生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・視察から「２５～３０人」がよく見てもらえる適度の人数であると感じた。</li><li>・「２０人」位はバラエティに乏しくなり、人間関係が膠着した時が難しいと言われている。</li><li>・文献によると小人数と大人数で学力差は無いことがわかった。</li><li>・小人数教育を進めるべき。</li></ul> <p>（教員）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員経験から、学習指導、生徒指導、教室環境、事務処理などの面で「２５～３０人」位が適正である。</li></ul>	<p>（問９）※日立市の小中学校の①１校当たりの児童生徒数、②１学級当たりの児童生徒数をどのように感じていますか。</p> <div><p>&lt;参考&gt;</p><p>小学校の平均は①３５３人、②２９人</p><p>中学校の平均は①３２７人、②３３人</p></div> <ul style="list-style-type: none"><li>・小中学校ともに「ちょうどよい」が最も多い。 小学校 ６３．７％ 中学校 ５６．４％</li></ul> <p>（自由意見は整理中に付き次回提示）</p>	<p>（児童生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特別な支援が必要な子どもたちが増えている。特別支援学級在籍の児童が通常の学級で授業を受ける（交流学級で過ごす）ことを考えると、通常学級の人数は「２５人程度」が適正である。</li></ul> <p>（教員）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員経験から、「２０人前後」がきめ細かな指導ができる数である。</li><li>・教員経験から、学級の人数は「３０人以下」が良い。</li></ul>	<p>（国）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学１年生 ３５人</li><li>・小学２年生以上 ４０人</li></ul> <p>（茨城県）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学１，２年生 ３５人</li><li>・小学３年生～中学２年生 ４０人 ３５人超の学級へ一定の配慮あり ※ただし、中２はＨ２９年度から（予定）</li><li>・中学３年生 ４０人</li></ul>

（３）通学に関するもの

検討委員会	市民意見		国県の基準
	アンケート	地域懇談会	
<p>（通学距離）</p> <p>・小学生が通学できる距離にすべき。</p>	<p>（通学距離）</p> <p>（問１７）※優先して配慮すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・通学路の安全性確保に配慮すべき。</li><li>・学校まで遠距離とならないようにすべき。</li><li>・路線バスの利用など遠距離者の通学方法に配慮すべき。</li></ul> <p>（自由意見は整理中に付き次回提示）</p>	<p>（通学距離）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校が遠くなると、子どもの送迎などの保護者の負担が大きくなるので、児童クラブの迎えの時間、スクールバスの運行などに配慮してほしい。</li><li>・バス通学で歩かなくなると体力が落ちることも考慮してほしい。</li><li>・通学路の安全が確保できるのか心配である。</li><li>・保護者の立場から、子どもが通いやすい場所にしてほしい。</li></ul> <p>（学区）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学校と中学校の学区が合っていないため、中学進学の際に小学校の友達と別れてしまう。同じ中学校へ進学できるように学区を見直してほしい。</li></ul>	<p>（国）</p> <p>○通学距離（手引 P15）</p> <p>小学校でおおむね 4 km以内</p> <p>中学校ではおおむね 6 km以内</p> <p>○通学時間（手引 P16）</p> <p>おおむね 1 時間以内</p> <p>○統合により生じる課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・通学手段の導入（スクールバスなど）</li><li>体力の低下や家庭学習の時間の減少への対応、児童生徒の疲労への配慮など工夫が必要である。（手引 P16）</li><li>・通学路の安全確保（手引 P27）</li><li>要注意箇所の把握・周知の徹底</li><li>地域全体で見守る体制の整備</li><li>危険予測回避能力を身につける教育など</li></ul> <p>（茨城県）</p> <p>通学区域が広域化されることに伴う通学距離及び通学時間の児童生徒に与える影響、児童生徒の安全性、学校の教育活動の実施への影響等を十分検討し、保護や者や地域住民の不安に解消などに配慮すること。（指針 P 4）</p>

（４）その他

検討委員会	市民意見		国県の基準
	アンケート	地域懇談会	
<p>（小中一貫教育）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小中一貫校として、まとめてはどうか。</li><li>・義務教育学校の導入を検討してはどうか。</li></ul> <p>（地域と学校の関係）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域との連携を考慮した統廃合、適正配置を考えていかなければならない。</li><li>・小学校とコミュニティが密接に関わることが重要である。</li><li>・地域に根差してこそ教育力が発揮できる。</li></ul>	<p>（子どもたちへのケア）</p> <p>（問１７）※優先して配慮すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・円滑な学校生活に向け、統合校間で事前に交流するべき。</li><li>・児童生徒の精神的なケアに配慮するべき。</li><li>・一人の子どもが複数回の統合を経験しないようにするべき。</li></ul> <p>（自由意見は整理中に付き次回提示）</p>	<p>（子どもたちへのケア）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・統合されて、少人数から多人数の学校に行ったらついていけるか心配である。</li><li>・中学校で、小規模小学校の出身の生徒がいじめられることもある。</li><li>・統合すべき。その間においても小規模化が進むので、子どもたちへの配慮が必要である。</li></ul> <p>（小中一貫教育）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他市町村で取り組んでいる小中一貫教育を日立市で行う考えはないか。</li><li>・（中１ギャップの解消などで成果を上げている）小中一貫教育の良いところを市内の学校に活かしてほしい。</li></ul> <p>（地域と学校の関係）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域活動（コミュニティスクール含む。）がしにくい統合はしないほしい。</li><li>・学校を通して地域がつながっている。統合されると、地域の連携・存続ができなくなる。</li><li>・学校がなくなったら地域が衰退する。小中一貫教校などを検討して、学校を残す努力をしてほしい。</li><li>・複式学級のデメリットが大きいのに、地域のために学校を残すのは避けてほしい。</li></ul>	<p>（国）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○統合の適否に関する合意形成を図る。（手引 P13）</li><li>○魅力ある学校づくりを進める。（手引 P23）<ul style="list-style-type: none"><li>・地域との協働関係を生かした学校づくり（コミュニティスクールなど）</li><li>・魅力あるカリキュラムづくり（小中一貫教育、保幼小連携、中高連携、小中高連携、ＩＣＴなど）</li></ul></li><li>○統合により生じる課題に対応する。（手引 P26）<ul style="list-style-type: none"><li>・児童生徒にとっての環境変化への配慮と継続した支援</li><li>・学校と地域の関係の希薄化を防ぐ工夫</li><li>・拠点機能の継承（防災、地域活動など）</li></ul></li></ul> <p>（茨城県）指針 P4</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域の地理的・歴史的な成り立ちなどによる生活圏を考慮する。</li><li>・急激な環境の変化に対応に対応するために事前の交流活動や統合後のきめ細やかな指導を行うために十分配慮する。</li><li>・<u>適正規模化が困難な場合</u>、小中一貫教育や学校種間の連携による教育環境改善に取り組む。</li><li>・地域との密接な関係による特色のある教育活動を継続して取組めるようにする。</li></ul>